

令和4年度 日野市立東光寺小学校経営重点計画				自己評価シート				令和5年3月公表			
★学校教育目標				○明るい子ども ◎考える子ども ○強い子ども				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）								学校の教育目標、目指す学校像を達成するために、第3次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよこびあふれる未来をつくっていく力」を基本構想の理念とし、「いのち」「学び」「地活」について重点化するとともに、 ①「特別の教科道徳」を校内研究として取り組み、児童の自尊感情や自己有用感を高める。特別活動を教育課程の中心に置き、特別活動と特別の教科道徳との往還を研究の中心とする。 ②生活指導については、「東光寺スタンダード」を完全実施し、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。保護者会や学校便りを通して、保護者・地域にも発信する。 ③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。地域・保護者ボランティアを授業や、教育活動全般へ積極的に要請する。			
【めざす児童・生徒像】				○自然を大切にし、優しい心で接する子ども ○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子ども ○健康・安全に心がけ、前向きな気持ちで生活する子ども							
【めざす学校像】				○安心・安全な学校 ○子供が嬉々として登校し、自分の成長を実感する学校							
【めざす教師像】				○向上心をもち、常に指導法の改善を心がける教師 ○児童一人一人を見つめ、輝かせる教師 ○公務員としての自覚と地域貢献意識をもつ教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
いのち	教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置く。自他の生命を大切にし、正義感や自尊感情・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	「特別の教科 道徳」を授業の要とし、教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、“いのち”の教育を推進し、自尊感情や自己有用感を高める。 校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 ・全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊・4年生はペゴニア・3年生はひまわり・2年はミニトマト・1年はあさがお） ・農業活動の体験を通した「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4	4	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が90%以上	3	4	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が100%	○各学年「いのち」を題材とした取組が非常に良かった。社会貢献（ボランティア）はとても大切なことで、小さな一歩から始めてもらいたい。 ○一人一鉢の栽培を全学年携わらせていただいたが、学年により差が見られた。作業の過程の打合せが出来ていない。植えたもののその後の関わりがなく、交友会でやってしまうことに疑問を感じるがあった。 ○菊は児童の持ち帰る数が多く、育てたという思いが伝わってきた。花壇の水やり等、児童も応えてくれた。 ○栽培に関しては、開花後の種の採取まで行えばと思う。元気に育ち、命を捨てることで次世代に伝えていくことの大切さを体験してほしい。	○一人一鉢運動は、本校の「いのち」の取組の中心として進めていく。 ○菊は校歌にも歌われており、学校のシンボルとして、さらに教員・児童の意識を高めていく。 ○地場野菜を3割近く使った給食を提供している。地元の農家の方々への感謝し、「食」の大切さについて児童だけでなく、保護者へも発信していく。
					3	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が80%以上		3	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が90%以上		
					2	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%以上		2	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が80%以上		
					1	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%未満		1	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が80%未満		
学び	「一律一斉の学びから自分に合った多様な学び方へ」へと転換を図るために、校内研究・研修の充実を図り、指導法の工夫や教材研究を行い、児童の力を最大限に引き出す。	特別活動では、「話し合い活動」の積み上げを生かし、自分たちで考え、語り合いながら学び合いの学習活動を展開する。前学年の復習と新学年の学習内容の定着を徹底することに努める。	児童の学力向上及び教員の授業力や学級経営力の育成・向上を図り、協働的な学習を中心とした授業改善を図る。 ・分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土をつくる。 ・自分たちなりの方法で、自分たちなりに考える過程を大切にする。 ・一人一台タブレットの有効活用やICT支援員を積極的に活用した研修を行い、一人一人へのよりきめ細やかな支援体制を整える。	4	4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が100%	3.3	4	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が90%	○登下校時の多少のケンカは耳にするが、いじめという大きな問題には直面していない。実は表面化していないだけかもしれないので、いじめの調査は定期的に必要と考える。 ○よりよい学級を実現するため、児童一人一人が真剣に取り組む姿勢が大切だと思う。 ○以前実施していた挨拶運動ですが、市が実施を見送っても学校独自で以前のような挨拶運動が再開出来るとよい。 ○子供の人間関係では、いじめは当然のことで、あってはいけないのではなく、あるのが普通と考える。問題は、起きた時にどう扱い、指導していくかである。色々なケースがあり、様々な対応があると思うが、担任の先生だけでなく、多くの先生方で起きたことを話し合い、バスの指導ができるようお願いしたい。	○いじめに対しては未然防止に努め、即時対応ができるよう、報告・相談・連絡の体制が整えられてきている。 ○エル、ほっとも、わかは教室、子ども家庭支援センター、児童相談所等とも情報交換をしていく。 ○クロームブックを使ったオンライン授業を実施することができた。今後も、欠席をしている児童にも学校の様子を伝えたり、授業に参加したりできる環境を整えていく。
					3	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が90%以上		3	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が80%		
					2	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%以上		2	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%		
					1	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%未満		1	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%未満		
					4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%以上		4	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が90%		
地域	コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく。 ・一昨年度、日野市役所、地域の消防団、保護者の協力のおかげで、学校で一泊二日の防災キャンプを実施することができた。その後、6年生の子供たちから「地域の方々へのお礼をしたい」と声が上ががり、地域清掃を継続している。このような児童発信の活動を各学年の発達段階に応じて行っていく。 ・代表委員会が考えたスローガン「明日も来なくなる東光寺」を元に、東光寺小学校をよりよい学校にしようとする決意をもたせる。	4	4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が80%以上	3.4	4	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が90%	○自己向上意欲の熟成、自分で考え自分で行動に移せる子供を育てる。その過程の中で自己責任の大切さを学ばせる。 ○進んで先生方と向き合い、かつ先生や大人を尊敬し、積極的に問題提起をしえる学校の雰囲気作りを望む。 ○授業参観では、どの教科でも（高学年でした）クロームブックを使いこなす様子に驚いた。	○クロームブックの活用場面が劇的に増えており、一人一人が活躍する場面が様々な場面で見られるようになった。今後はどのような場面での活用が効果的なのかを検討していく。 ○地域コーディネーターが中心となって、植物の栽培や外国語（活動）に保護者や地域の人材を活用し、教員の負担が軽減するよう体制を整えていく。
					3	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が70%以上		3	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が80%		
					2	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%以上		2	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%		
					1	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%未満		1	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%未満		
					4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が90%以上		4	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が80%以上		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊感情を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通した成就感を積み重ねることによって自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を「特別活動と他教科等の往還」に置き、特に特別の教科道徳での授業改善に取り組む。	学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・児童会活動の進め方についても学級会での話し合いを生かし、児童の手によって計画などを決められるようにする。 〈主な手立て〉 ・教師用指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・全学級の学級会授業観察 ・委員会・クラブ活動の様子をオンラインを活用して全校に紹介	4	4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が90%以上	3	4	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が80%以上	○互いに認め合い、個々の能力を褒め合うことは非常に大切な。人は皆、何かしら人と違う良い部分があることを伝えたい。 ○良いところを褒め伸ばし、自信をもたせ、自分は世の中に大切な存在なんだと健全な自尊を育んでもらいたい。 ○学級会の授業では、進路上的的確な担任の助言やしっかりと自分の意見を言い他の児童の意見を聞く等、子供たちが決定していく過程が感じられた。言葉が足りない部分のフォローや否決された児童への対応で納得していたのが印象に残った。	○各教室に、学級活動・係活動・学級のあゆみコーナーを設置し、学級の所属意識を高める。各学年廊下に議題掲示板、1階に委員会活動場掲示板等を設置し、児童の主体的な活動を促す。 ○異学年交流活動では、縦割り班で話し合い、実践することにより、学級会活動で培った力を異学年交流でも発揮できるようにする。 ○「東光寺小学校版学級活動ハンドブック」を活用し、指導を行う。
					3	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%以上		
					2	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%以上		
					1	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%未満		
					4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が90%以上		4	児童アンケートで「学校や学級ののために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が80%		
生活	生活指導の充実と豊かな人間関係の育成及び安全で安心できる学校体制をつくる。	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	平成30年度から特別活動の研究を進めている。一昨年度は、日野市教育委員会研究奨励校として3年間の研究成果を発表した。今年度は特別活動の研究5年目となる。研究の中心をこれまで育んできた資質・能力を生かした特別の教科道徳等との往還に置き、授業改善に取り組む。 ・これまでの特別活動における研究の成果を土台に道徳の研究を進める。 ・低学年・中学年・高学年の3つの分科会で、それぞれの発達段階や特性に応じた研究の推進する。専科とステップ教室の教員は、3つの分科会に入る。	4	4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が90%以上	2.8	4	児童アンケートで「学校や学級ののために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が80%	○他教科との往還では、道徳教育を要として、どの教科においても推進できるような研修を進めていく。 ○「キャリア・パスポート」を効果的に活用し、児童が自らの成長を振り返りながら、なりたい自分を目指す。 ○学級活動では、学年の実態に応じた題材を年間指導計画に位置付け、ティーム・ティーチングやゲスト・ティーチャー等を効果的に活用し、児童のよりよい意思決定につなげる。	○東光寺スタンダードは全校の共通した取組が大前提である。教員の認識の違いが学級の差異になっている。年度当初だけでなく、生活指導学会や職員会議等でも確認をしていく。また、児童の実態に合わせて、毎年改訂をしていく。 ○保護者や地域の方々からの信頼を得られるよう、互いに声を掛けたり、よりよい環境に作りに努めたりしていく。
					3	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「学校や学級ののために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が70%		
					2	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「学校や学級ののために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%		
					1	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「学校や学級ののために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%未満		
					4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上		4	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が80%		
生活	生活指導の充実と豊かな人間関係の育成及び安全で安心できる学校体制をつくる。	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や取組方を共通理解し、完全実施を行う。 〈主な取組〉 ・時間の厳守 ・廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣	4	3	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が70%以上	3	3	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が70%	○東光寺スタンダードは全校の共通した取組が大前提である。教員の認識の違いが学級の差異になっている。年度当初だけでなく、生活指導学会や職員会議等でも確認をしていく。また、児童の実態に合わせて、毎年改訂をしていく。 ○保護者や地域の方々からの信頼を得られるよう、互いに声を掛けたり、よりよい環境に作りに努めたりしていく。	
					2	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%以上		2	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%		
					1	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%未満		1	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%未満		
					4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上		4	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が80%		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。